

製品名: ラトロフィリン-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13233**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	LPHN2
別名	LPHN2; KIAA0786; LEC1; LPHH1; Latrophilin-2; Calcium-independent alpha-latrotoxin receptor 2; CIRL-2; Latrophilin homolog 1; Lectomedin-1
遺伝子 ID	23266.0
SwissProt ID	O95490
免疫原	抗血清はヒト LPHN2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 551-600

背景

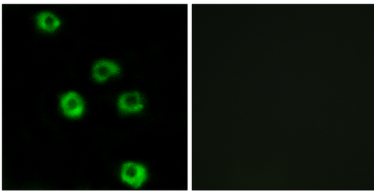
この遺伝子は、G タンパク質共役受容体のラトロフィリンサブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパ

ク質は、エキソサイトーシスの調節に関与しています。プロタンパク質は、システインに富む G タンパク質共役受容体のタンパク質分解部位内でさらに切断され、細胞膜で非共有結合する 2 つの鎖に分解されると考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014 年 7 月]、機能: カルシウム非依存性で、クロコケグモ毒に含まれる興奮性神経毒である α -ラトロトキシンに対する低親和性受容体。 α -ラトロトキシンは、ニューロンおよび神経内分泌細胞からの大量のエキソサイトーシスを引き起こします。おそらくエキソサイトーシスの調節に関与する受容体。 ,PTM:タンパク質分解により 2 つのサブユニット (細胞外サブユニットと 7 回膜貫通サブユニット) に切断される。 ,類似性:G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属する。 LN-TM7 サブファミリー。 ,類似性:1 つの GPS ドメインを含む。 ,類似性:1 つのオルファクトメジン様ドメインを含む。 ,類似性:1 つの SUEL 型レクチンドメインを含む。 ,サブユニット:7 回膜貫通部位 (p85) に非共有結合した大きな細胞外領域 (p120) からなるヘテロ二量体を形成する。 ,組織特異性:試験したすべての正常組織で非常に広く発現している。腫瘍細胞株における発現は様々であり、一部の株では明らかに上昇しているが、他の株では発現が消失または著しく低下している。 ,

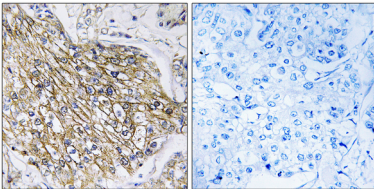
研究分野

-

画像データ



LPHN2 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



LPHN2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。